

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	1	BRCA1/2遺伝子変異陽性進行・再発乳癌患者の薬物療法として何が勧められるか？
P	BRCA1/2遺伝子変異陽性進行・再発乳癌	
I	PARP阻害薬	
C	化学療法(治療医選択)	
臨床的文脈		
O1	PFSの延長	
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。	
バイアスリスクのまとめ	Open-Label studyであり選択バイアスがある。深刻と判断した。	
非一貫性のまとめ	I ² 統計量は小さく、Forest plotにおいて2つの試験の点推定値の異なりはない。信頼区間の重なりもある。以上より深刻な非一貫性はないと判断した。	
不精確さのまとめ	総サンプル数は733である。深刻な不精確さはないと判断した。	
コメント		
O2	OSの延長	
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。	
バイアスリスクのまとめ	Open-Label studyであり選択バイアスがある。深刻と判断した。	
非一貫性のまとめ	I ² 統計量は小さく、Forest plotにおいて2つの試験の点推定値の異なりはない。信頼区間の重なりもある。以上より深刻な非一貫性はないと判断した。	
不精確さのまとめ	総サンプル数は733である。深刻な不精確さはないと判断した。	
コメント		
O3	治療関連有害事象の増加: Toxicity (Discontinued Treatment, Anemia Grade 3 or more, Neutropenia Grade 3 or more)	
非直接性のまとめ	深刻な非直接性はないと判断した。	
バイアスリスクのまとめ	Open-Label studyであり選択バイアスがある。治療を受けていない患者は有害事象の報告から除外されている。以上より深刻と判断した。	
非一貫性のまとめ	NeutropeniaとVomitingではI ² 統計量は大きいとDiscontinued Treatment,とAnemiaでは小さかった。4項目ともにForest plotにおいて2つの試験の点推定値の異なりはなく、信頼区間の重なりもある。以上より深刻な非一貫性はないと判断した。	
不精確さのまとめ	総サンプル数は708である。深刻な不精確さはないと判断した。	
コメント		